

# 2025年3月期 第2四半期(中間期)決算説明会

2024年11月20日

株式会社オプティム(東証プライム市場：3694)

代表取締役社長 菅谷 俊二

## 免責事項

本資料に記載されている計画、見通し、戦略等はいずれも作成時点で入手可能な情報を基にした予測であり、これらは経済環境、競合状況、新サービスの成否などの不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績および戦略は、この配布資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。また、本資料に記載されているマーケット情報などに関する情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

# 1 2025年3月期 第2四半期(中間期)決算レビュー

2 2024年度取り組みのご紹介

3 2025年3月期 通期業績見通し

4 Appendix

## サービス区分

1 IoTプラットフォームサービス  
(Optimal Biz)

2 IoTプラットフォームサービス  
(Optimal Bizを除くIoTプラットフォーム  
サービス)

3 リモートマネジメントサービス

4 サポートテクノロジーサービス

5 その他サービス

## 補足説明資料向け区分

1 モバイルマネジメントサービス

2 X-Techサービス

3 その他サービス

圧倒的なシェアを持つ  
モバイルマネジメントサービスを着実に成長させ  
急速に拡大するDX市場でイノベーションを創出し  
大きな成長を実現する

創業来25期連続となる  
過去最高売上高・営業利益に向けて計画通り順調に推移  
積極的な成長投資を継続

	2024年3月期 第2四半期 実績	2025年3月期 第2四半期 実績	実績 前年比	2025年3月期 通期業績 予想
売上高	43.8億円	45.1億円	103.0%	113.0億円
営業利益	7.6億円	7.9億円	104.1%	19.5億円
経常利益	6.7億円	6.6億円	99.8%	-
純利益	3.9億円	3.8億円	97.3%	-

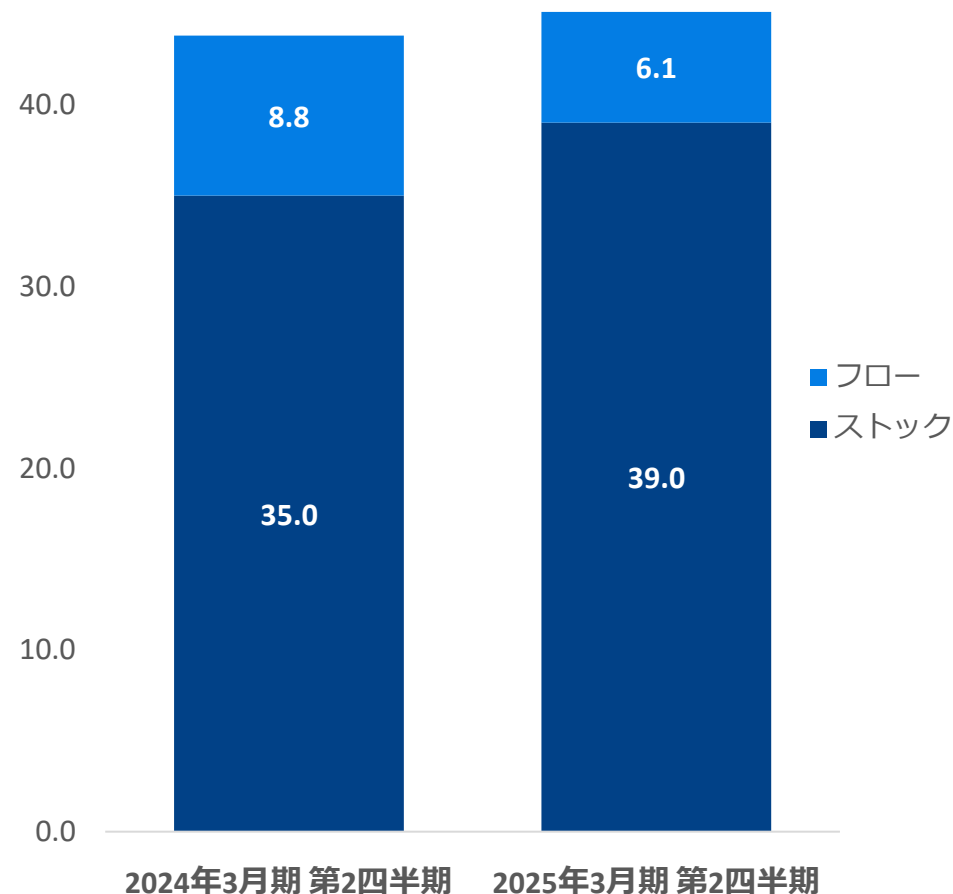
# 1. 2025年3月期 第2四半期(中間期)決算レビュー 売上実績：ストック・フロー内訳

「モバイルマネジメントサービス」  
「X-Techサービス」  
を中心とした

ストック売上が  
順調に成長

## ストック・フロー 売上の内訳

単位:億円  
50.0



※一部のサービスについて売上管理区分の見直しを行った結果、ストック・フロー 売上の内訳に変更が生じたため、前期分も含め表示を変更しております。

**第2四半期の進捗状況としては、売上・利益ともに計画通り順調に推移しており、通期業績予想への影響は一切ございません。**

## 【売上】

- ・当中間連結会計期間においては、「アグリテック」のドローン農薬散布DXサービス「ピンポイントタイム散布サービス」を全国で提供した結果、「アグリテック」の売上が前中間連結会計期間対比で大きく成長しております。
- ・ストック型の売上は、「モバイルマネジメントサービス」「X-Techサービス」とともに、それぞれ中核となる「Optimal Biz」「OPTiM Cloud IoT OS」を中心に、順調に推移しております。  
また、「デジタルコンストラクション」の「OPTiM Geo Scan」および「オフィスDX」の「OPTiM Contract」、「OPTiM 電子帳簿保存」について、順調にライセンス数が積みあがっております。
- ・当社グループの売上構造は、ストック型のライセンス収入で継続課金による売上が中心となっていること及びフロー型のカスタマイズ売上の時期が下期に集中する傾向があること、などの理由から、売上は下期偏重となります。

## 【利益】

- ・経常利益と純利益は、前中間連結会計期間と比較して減少しておりますが、これは主に、持分法による投資損失が43,475千円増加したことによるものです。
- ・前年対比でストック型の売上の割合が増加したことにより売上総利益率が上昇しております。

1 2025年3月期 第2四半期(中間期)決算レビュー

**2 2024年度取り組みのご紹介**

3 2025年3月期 通期業績見通し

4 Appendix



## 2. 2024年度取り組みのご紹介 X-Techサービス：アグリテック

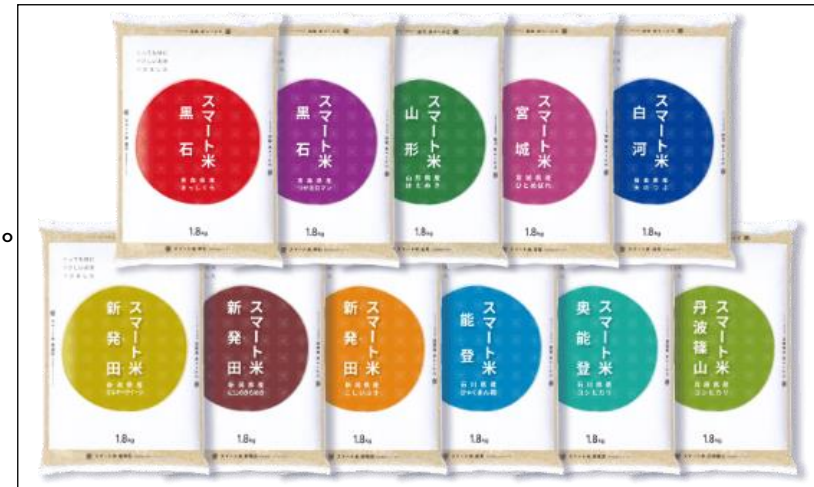
### 国内初※、「みどりの食料システム法」における 基盤確立事業認定を、農業流通DX事業が取得

当社及び子会社のオプティムアグリ・みちのくが取り組んでいる農業流通DX事業は、国が進める「みどりの食料システム戦略」の「みどりの食料システム法認定制度」において、「環境負荷低減の取組を通じて生産された農林水産物の流通の合理化」を行う事業者として、国内で初めて基盤確立事業実施計画の認定を受けました。

この認定により、当社および子会社のオプティムアグリ・みちのくは、20を超える国の農業関連補助事業の優先採択措置が認められます。

また、全国の生産者、農業団体、自治体とともに展開するスマート米事業や農業サービス事業は、流通の合理化に資する機械施設整備や調査・実証に関して、最大1.5億円規模の支援を国から受けることができます。

さらに、「みどりの食料システム戦略推進交付金」では、採択ポイントの内、特定区域の設定や農業者の計画認定などで最大20点が加点されるなど、補助事業の優先採択が受けられるメリットがあります。



2024.07.16 プレスリリース

※ 2024年7月12日時点、当社調べ。みどりの食料システム法の中で、「基盤確立事業」の要件として①～⑥の分類が定められており、⑥「環境負荷低減の取組を通じて生産された農林水産物の流通合理化」を行う事業者では、当社およびオプティムアグリ・みちのくが国内で初めての認定。

## 2. 2024年度取り組みのご紹介 X-Techサービス：オフィスDX

### 「OPTiM Contract」および「OPTiM 電子帳簿保存」、 「ITトレンド上半期ランキング2024」にてNo.1を獲得

累計4,000万人以上が利用する、法人向けIT製品の比較・検討サイト「ITトレンド」が公開した、「ITトレンド上半期ランキング2024」（2024年上半期にユーザーから最も問い合わせが多かった製品のランキング）にて、「OPTiM Contract」および「OPTiM 電子帳簿保存」が以下の部門でNo.1※の評価を獲得しました。

- ・ 契約書管理システム部門：OPTiM Contract
- ・ 電子帳票システム部門：OPTiM 電子帳簿保存



2024.07.01 プレスリリース

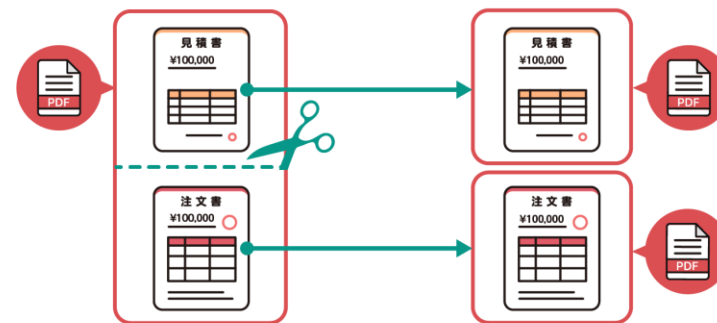
### 「OPTiM 電子帳簿保存」、1つのファイル内に複数の書類を含むPDFを分割する「書類分割機能」を提供開始

「書類分割機能」では、見積書や注文書など複数の書類が1つのPDFファイル内に含まれている場合に、任意のページで分割を行い別々の書類として登録することができます。

これにより、「OPTiM 電子帳簿保存」へ複数の書類が含まれているPDFファイルを登録をする際、事前に書類を分割する処理が不要となり、速やかに書類登録を行うことができます。また、分割された書類はAI-OCRによって、取引年月日・取引金額・取引先名など電子帳簿保存法対応に必要な項目が自動入力されることで、手入力の手間を削減します。

### OPTiM 電子帳簿保存 書類分割機能を提供開始

1つのファイル内に複数の取引書類が含まれる場合に、  
任意のページで分割を行い別の書類として管理を行うことができます。



2024.10.08 プレスリリース

※ 出典：ITトレンド上半期ランキング2024  
契約書管理システム部門：[https://it-trend.jp/award/2024-firsthalf/contract\\_management](https://it-trend.jp/award/2024-firsthalf/contract_management)  
電子帳票システム部門：[https://it-trend.jp/award/2024-firsthalf/electronic\\_report\\_system](https://it-trend.jp/award/2024-firsthalf/electronic_report_system)

## 2. 2024年度取り組みのご紹介 X-Techサービス：オフィスDX

### SaaS管理サービス「OPTiM サスマネ」、 SaaS契約を管理する新機能「契約管理台帳」を提供開始

SaaSの利用に関連する契約を管理するための新機能「契約管理台帳」を提供開始しました。

本機能は、企業で利用しているSaaSの契約プランや契約開始日、契約終了日、契約期間などの情報を管理する機能です。本機能を用いることで、契約期日や自動更新の日が近づいた際にアラートを通知することができるため、複数契約の一元管理や契約更新などの手続きの抜け漏れ防止、契約管理の効率化などを実現いたします。

### SaaS管理サービス「OPTiM サスマネ」、 タレントマネジメントシステム「カオナビ」とAPI連携を開始

「カオナビ」と連携することで、「OPTiM サスマネ」の人事マスターとして「カオナビ」のユーザー情報を反映することが可能となり、そのユーザー情報をもとに「OPTiM サスマネ」で一元的に各SaaSのアカウント管理を行うことができます。また、「カオナビ」を「OPTiM サスマネ」のSaaS管理対象の1つとして連携し、従業員ごとの「カオナビ」の利用状況を可視化することも可能となります。

これにより、業務システムの基盤管理を担う情報システム部門は、氏名・顔写真等のユーザー情報やサービスの利用状況など業務に必要な情報を手間なく参照することができ、業務負荷の軽減に繋がります。

OPTiM® サスマネ  
SaaS契約を管理する  
新機能「契約管理台帳」を提供

2024.08.29 プレスリリース

OPTiM® サスマネ × kaonavi

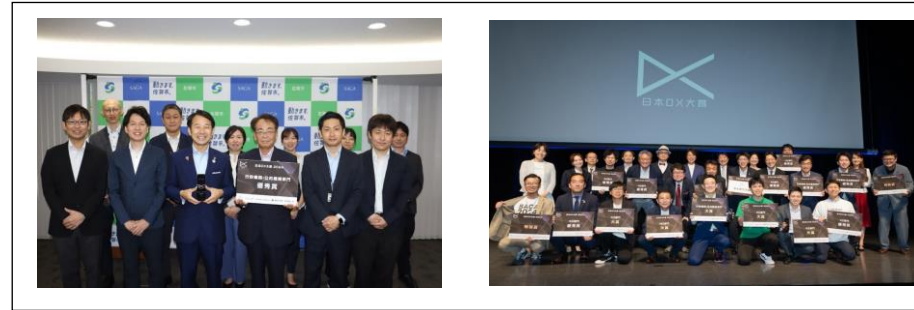
2024.10.16 プレスリリース

## 2. 2024年度取り組みのご紹介 X-Techサービス：マーケティングDX（自治体DX）

### 「佐賀市公式スーパーアプリ」が、 日本DX大賞2024「優秀賞」を受賞

佐賀市と共に開発した「佐賀市公式スーパーアプリ」が、「日本DX大賞2024」における「行政機関・公的機関部門」にて、「優秀賞」を受賞いたしました。

日本DX大賞実行委員会より、授賞理由については、「市役所機能をアプリ内に集約するという革新的なアプローチが高く評価された。人口減少が進む中での画期的な取り組みとして、他の自治体への波及効果が期待される※」というコメントをいただいております。



2024.07.10 プレスリリース

### 佐賀県武雄市

### 「令和6年度武雄市公式スーパーアプリ構築業務」の受託者 として当社が選定されました

佐賀県武雄市より、受託者への選定理由について以下のような評価をいただきました。

- 武雄市が目指す行政サービスの実現性に関して、利用する側、運営する側の双方にとって効率的な技術が取り入れられている点。
- 佐賀市における実績が示すように、信頼性のあるプロジェクト遂行能力を持っている点。
- 今後の協力関係を築く上で重要な要素である、柔軟かつ迅速なコミュニケーションが、提案過程において見られた点。



2024.08.15 プレスリリース

※ 出典元：日本デジタルトランスフォーメーション推進協会  
お知らせ 日本DX大賞2024 受賞者発表、132エントリーから選ばれた優れた取り組みを表彰日本DX大賞2024 受賞者発表2024 [https://jdxa.org/news/20240624\\_dxawards/](https://jdxa.org/news/20240624_dxawards/)

# 2. 2024年度取り組みのご紹介 X-Techサービス：マーケティングDX

## 国内初※、AIが実現する カスタマーサクセスサービス

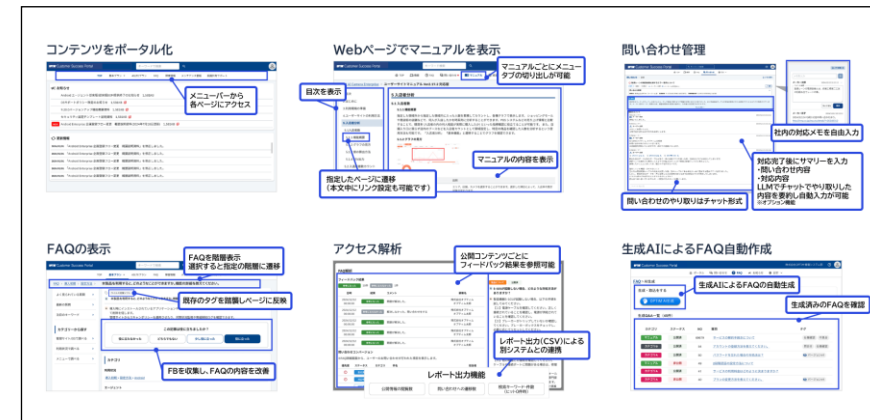
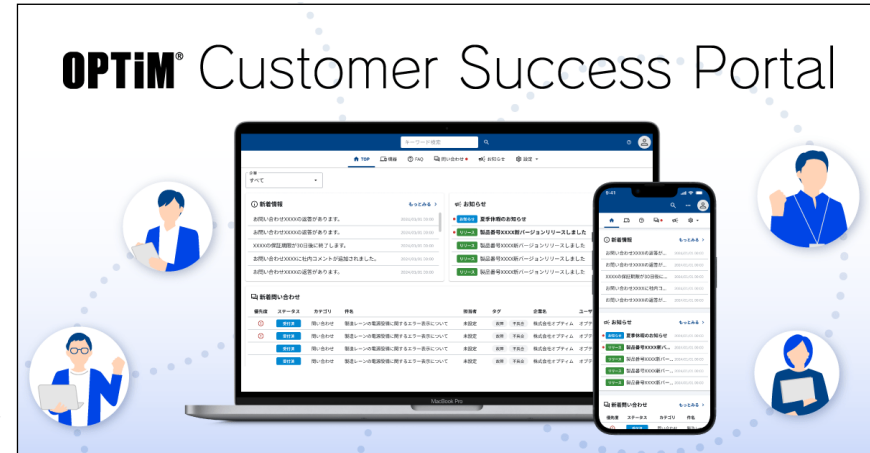
### 「OPTiM Customer Success Portal」を発表

あらゆる業種での顧客成功支援をAIにより自動・低コストで実現  
顧客満足度と顧客接点を最大化し収益機会の拡大を支援

本サービスは、企業が持つコンテンツ（マニュアル、FAQ、パンフレットなど）を活用してその企業の顧客（以下、顧客）とのデジタルタッチポイントを構築するサービスです。顧客とのコミュニケーションを一元管理・可視化し、AIが問い合わせへの対応やコンテンツの配信、アップデートを自動で行います。

これにより、企業の顧客対応コストを削減しながら、顧客満足度を向上させます。

なお本サービスは、2024年12月末よりベータ版の提供を開始します。



2024.10.22 プレスリリース

※ 2024年10月17日時点、当社調べ。

## 2. 2024年度取り組みのご紹介 X-Techサービス：デジタルヘルス

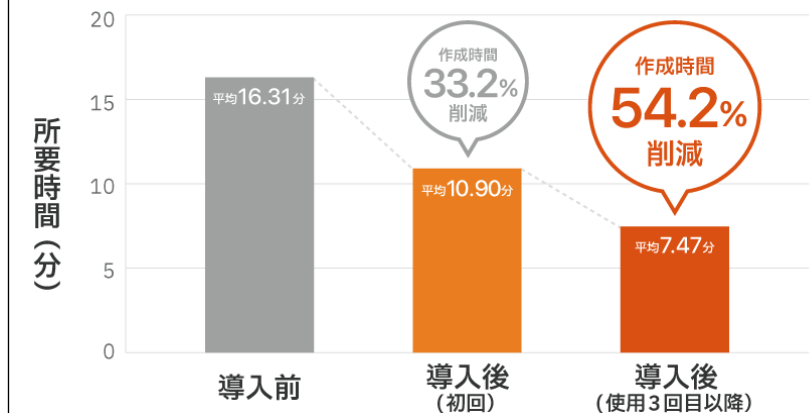
### 国内初※1、医師・看護師の文章作成業務を生成AIが支援する オンプレミスLLM搭載サービス 「OPTiM AI ホスピタル」販売開始

医療従事者の働き方改革を支援。対象業務時間の54.2%削減に成功

医師・看護師の文章作成業務をAIが支援する、オンプレミス大規模言語モデル（LLM）を搭載したサービス「OPTiM AI ホスピタル」（特許出願中）の販売を2025年1月より開始いたします。



### ■ 「OPTiM AI ホスピタル」導入効果



2024.11.07 プレスリリース

※1 2024年11月7日時点、当社調べ。電子カルテと連携し、オンプレミスで導入されるLLM搭載サービスとして。

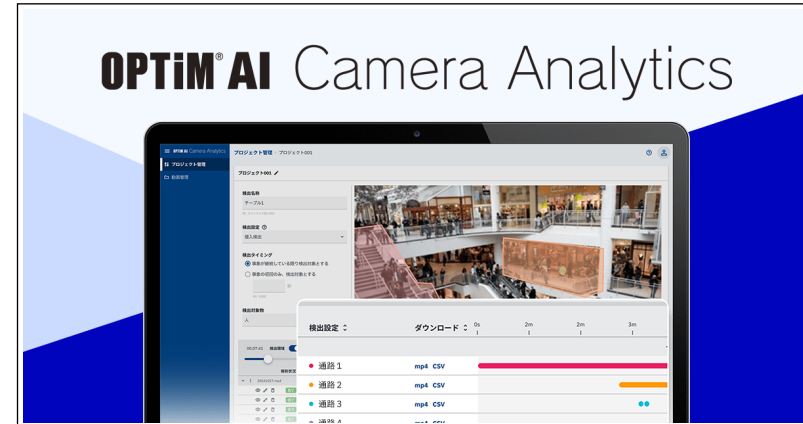
※2 当社調べ。織田病院において「OPTiM AI ホスピタル」導入前と導入後の退院時看護サマリーの1件あたり作成時間を比較した結果。

## 世界初※、撮りためた映像データをAIがあらゆる手法で 解析するサービス 「OPTiM AI Camera Analytics」を発表

「OPTiM AI Camera Analytics」は、お客様で手軽に映像解析を実施し、マーケティング分析やヒヤリハットの確認、映像の抽出が可能な世界初のAI動画解析ソリューションです。

本サービスは、直感的でグラフィカルなインターフェースにそってお客様ご自身で用途に応じたAIを選択することで、さまざまな用途で映像解析サービスをご利用いただけます。また保存した動画に対し複数の解析を試行することが可能です。

さらに、既存のリアルタイム解析機能と合わせて活用することで、リアルタイム/非リアルタイム解析をハイブリットで活用することが可能となります。



2024.10.23 プレスリリース

※ 2023年9月時点、当社調べ。  
複数のAIモデルをユーザーの設定に基づき動画全編にわたり解析、自動編集、タグ付け、フレーム分けできるサービスとして特許出願中。

## 2. 2024年度取り組みのご紹介 モバイルマネジメントサービス : Optimal Biz

OPTiM®

### MDM・PC管理サービス「Optimal Biz」、 キーエンス、シャープ、オプトエレクトロニクスなど、 スマホ・タブレットメーカーとの協力体制を強化

店舗内や物流・工場などの現場で活用を実現する業務専用端末管理メニューを追加

MDM・PC管理サービス「Optimal Biz」では、業務専用スマートフォンやタブレット端末のメーカーとの協力体制を強化しており、あらゆる業界や業種の専用端末への対応が進んでおります。

また、新たに対応した業務専用端末を用いて、飲食店や小売店舗、物流業、工場などの現場でのDX化及び効率化を実施すべく、業務専用端末管理メニューを追加しました。

今後もスマホ・タブレットメーカーとの連携強化をはじめ、安全性を確保しながら業務効率化を実現する機能を拡充してまいります。

### MDM・PC管理サービス「Optimal Biz」、 ライフコーポレーションでの導入開始

発注・商品管理・シール印刷、POP操作※1などさまざまな業務の端末共通化を独自機能で実現、店舗DXを加速

関東・関西あわせて311店舗※2のスーパーマーケットを展開する株式会社ライフコーポレーションにて、MDM・PC管理サービス「Optimal Biz」の導入が開始されました。

業務ごとに複数種類の端末を利用することが主だった店舗環境において、業務端末を一本化し、従業員操作によって生じる端末不具合を「Optimal Biz」で制御することで、店舗DXの推進に繋げることが可能になります。



2024.10.31 プレスリリース

※1 電子棚札のPOP操作：POSレジやPOP作成システムから商品名や価格、バーコード情報などを電子棚札に送信し、店頭での価格表示やプロモーション情報を更新するプロセス。

※2 2024年9月10日時点。ライフコーポレーション会社概要より。



## 2. 2024年度取り組みのご紹介 モバイルマネジメントサービス : Optimal Biz その他

### 「Optimal Biz」がver.9.21.0にアップデート、 Windows向け機能を強化

#### 基本機能として「アプリケーションログ収集機能」が利用可能に

MDM・PC管理サービス「Optimal Biz」をver.9.21.0にアップデートし、「アプリケーションログ収集機能」を、「Optimal Biz」の基本機能として提供開始しました。

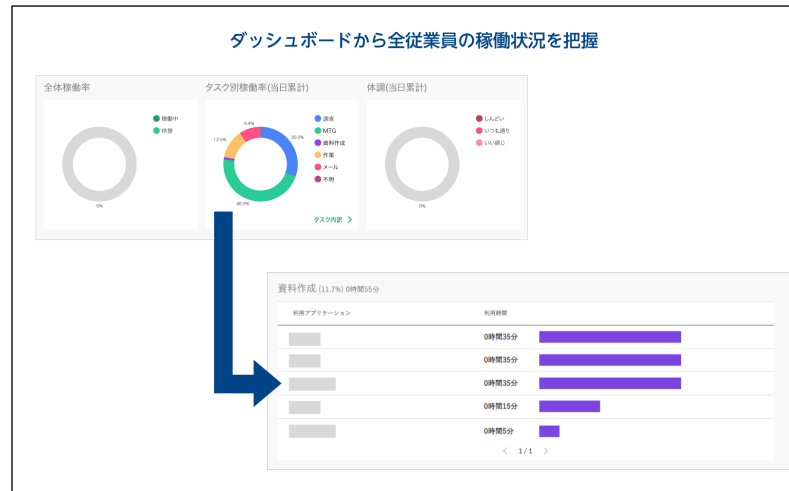
これにより、従業員の所有するWindows PCで各アプリケーションが稼働した時間を集計し、管理者がその情報を一括で確認し、管理することができます。また、アプリケーションを適切なタスクカテゴリに分類し、従業員が各作業に充てた時間を一目で確認できます。これにより、従業員の作業内容確認や業務効率改善、セキュリティ上問題のあるアプリの利用確認に役立てることができます。

### 九州栄養福祉大学とオプティム、 「食環境データサイエンス学科」を新設

九州栄養福祉大学と協働し、2025年4月に食農健康分野の専門知識とデータサイエンスとのスキルを併せ持つ、グローバル※な人材を育成することを目的とした「食環境データサイエンス学科」を新設いたします。

同学科では、データサイエンスと食健康分野の専門知識のスキルを併せ持つ「データサイエンティスト」を育成することで、未来の豊かな社会の実現に貢献することを目指します。

※ 「グローバル」と「ローカル」を合わせた造語。「グローバルな人材」とは、国際的な視点や国際社会で活躍できる能力を持ち、地域社会や地域経済の活性化及び発展に貢献する人材を指す。



2024.07.30 プレスリリース



2024.08.21 プレスリリース

## 2. 2024年度取り組みのご紹介 生成AI分野への取り組み

当社グループでは積極的に生成AI分野への研究開発投資を推進しており、生成AIを用いた報告書自動作成カメラアプリ「OPTiM Taglet」や、生成AIが実現するカスタマーサクセスサービス「OPTiM Customer Success Portal」、医師・看護師の文章作成業務を生成AIが支援する、オンプレミスLLMを搭載したサービス「OPTiM AI ホスピタル」など大規模言語モデル（LLM）を用いたサービスの提供を開始しております。今後も引き続き、生成AI分野への研究開発投資を推進し、あらゆる業界のDXを実現いたします。



1 2025年3月期 第2四半期(中間期)決算レビュー

2 2024年度取り組みのご紹介

**3 2025年3月期 通期業績見通し**

4 Appendix

創業来**25期連続**となる  
過去**最高売上高**を目指します

売上高**113.0**億円

(前年比110.0%)

当社グループのビジネスモデルは、ストック型のライセンス収入を中心とした売上構造となっております。

モバイルマネジメントサービスにおいては順調な市場の拡大を背景に着実に業績を拡大しております。

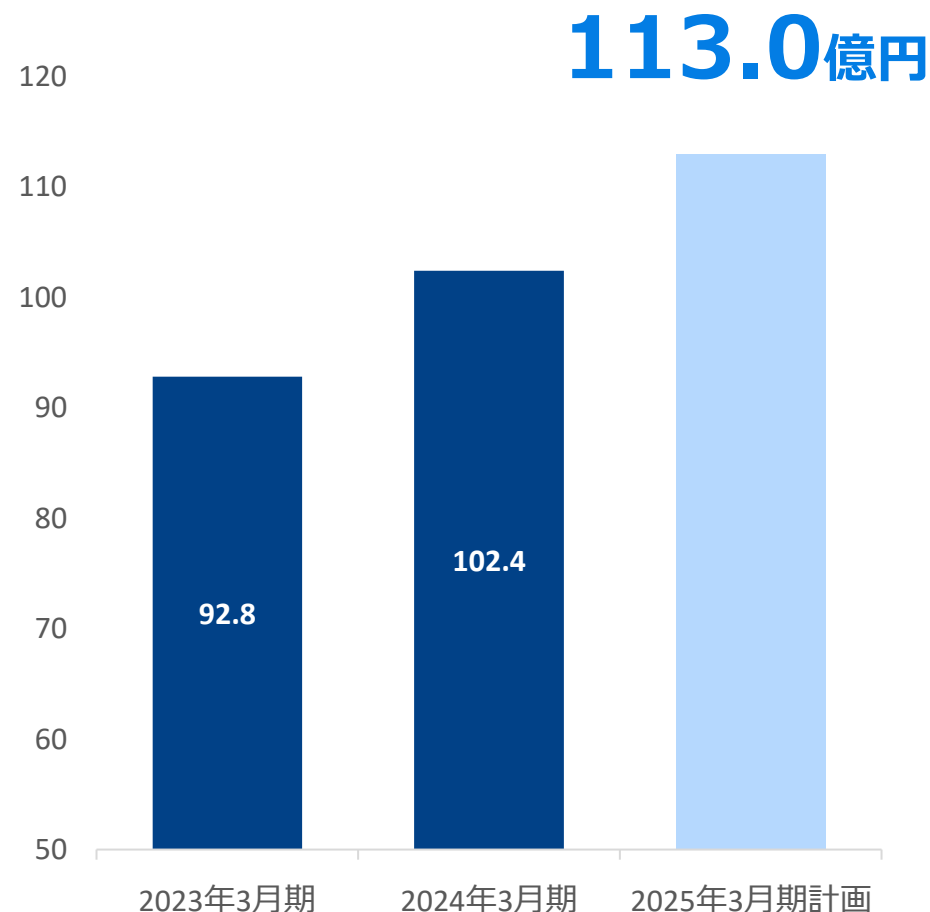
また、各産業においてDXが急速に進展していることを追い風に、X-Techサービスが大幅に成長しております。

上記を踏まえて、今期もストック売上の更なる拡大を実現させるとともに、過去最高売上高の実現を目指します。

売上予想

過去最高

単位:億円



第4次産業革命の中心的な  
企業になる事を目指し  
積極的な成長投資を継続しながらも

**2期連続となる  
過去最高営業利益を  
目指します**

**営業利益 19.5億円**

(営業利益率17.3%)  
(前年比100.5%)

今期においても成長領域に対して、引き続き積極的な成長投資を継続していく方針です。

好調なストック売上・利益の拡大を背景に、積極的な投資を行いながらも過去最高営業利益を目指します。また期中において優良な投資機会が生じた場合、柔軟かつ積極的に投資を行っていきたいと考えております。

営業利益予想

過去最高

単位:億円

20

**19.5億円**

18

16

14

12

10

17.5

19.4

2023年3月期

2024年3月期

2025年3月期計画

- 創業来25期連続となる**最高売上高更新**を見込む
- 2期連続となる**最高営業利益更新**を見込む
- 今年度も順調な**モバイルマネジメントサービスの成長**を見込む
- さらに、X-Techサービスである**アグリテック領域のドローン農薬散布サービス、オフィスDX領域の文書管理系サービス**などが**大幅成長**を見込む
- 上記サービスなどの成長を加速させるために、**積極的な投資を計画**
- ドローン農薬散布サービスでは、全国規模のサービスを安定的に稼働できるドローン、パイロットの稼働体制、バックエンドシステムへの投資を計画
- 契約書管理サービス、電帳法対応サービスでは、より積極的なマーケティングの実施に向けた投資を計画
- これらのサービスに加え、**新技術、新サービス開発の投資**を計画
- 今年度も**中長期の成長実現に向け積極的な投資**を計画

1 2025年3月期 第2四半期決算レビュー

2 2024年度取り組みのご紹介

3 2025年3月期 通期業績見通し

**4 Appendix**

# Appendix

---



圧倒的なシェアを持つ  
モバイルマネジメントサービスを着実に成長させ  
急速に拡大するDX市場でイノベーションを創出し  
大きな成長を実現する



Optimal Biz — モバイルの可能性を広げる —  
PC・モバイル管理SaaSサービス



国内MDM市場  
**13年連続** **No.1** ※1 を獲得

Optimal Bizは、スマートフォンやタブレットの  
ビジネス活用における幅広い課題を解決



紛失・盗難・  
情報漏えい対策



端末設定の  
効率化



資産管理・  
端末監視



セキュリティ設定

**180,000**社以上 ※2 の  
圧倒的な導入実績

平均解約率 約**0.5%** ※3

※1 出典：デロイト トーマツ ミック経済研究所 「クラウドサービス市場の現状と展望 2013年度版」IT資産管理（MDM含む）市場「合計売上高」2011年度～2012年度実績（2013年発行）、  
「コラボレーション/コンテンツ・モバイル管理パッケージソフトの市場展望 2014年度版」MDM市場動向「MDM出荷ID数（SaaS・ASP含む）」2013年度実績（2014年発行）、  
「コラボレーション/コンテンツ・モバイル管理パッケージソフトの市場展望」MDM市場動向「MDM出荷ID数（SaaS・ASP含む）」2014年度～2017年度実績（2015～2018年発行）、  
「コラボレーション・モバイル管理ソフトの市場展望」MDM市場「MDM出荷ID数（SaaS・ASP含む）」2018年度～2022年度実績および2023年度予測（2019年～2023年発行）より。

※2 2019年6月25日、当社集計

※3 主要パートナー実績をもとに当社が算出した月間平均集計期間(2021年4月-2022年3月)

## モバイルマネジメントサービスは社会のDX浸透に併せて 次々と新しい使われ方が始まっています



① オフィスでの活用



② 業務端末での活用



③ 文教での活用



④ 検温



⑤ テレワーク

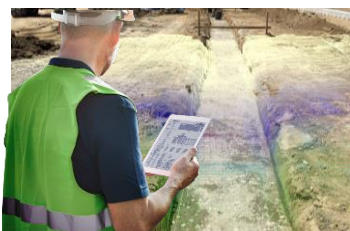


Optimal Biz  
国内MDM市場

13年連続  
**No.1** を獲得<sup>※1</sup>



⑥ 遠隔医療サービス



⑦ 建設測量



⑧ 業務遠隔サポート



⑨ 店舗の混雑状況確認



⑩ キャッシュレス決済

業界別  
全20部門でNo.1<sup>※2</sup>獲得



学校向け No.1



公益事業向け No.1



金融業向け No.1



流通業向け No.1



サービス業向け No.1



通信向け No.1

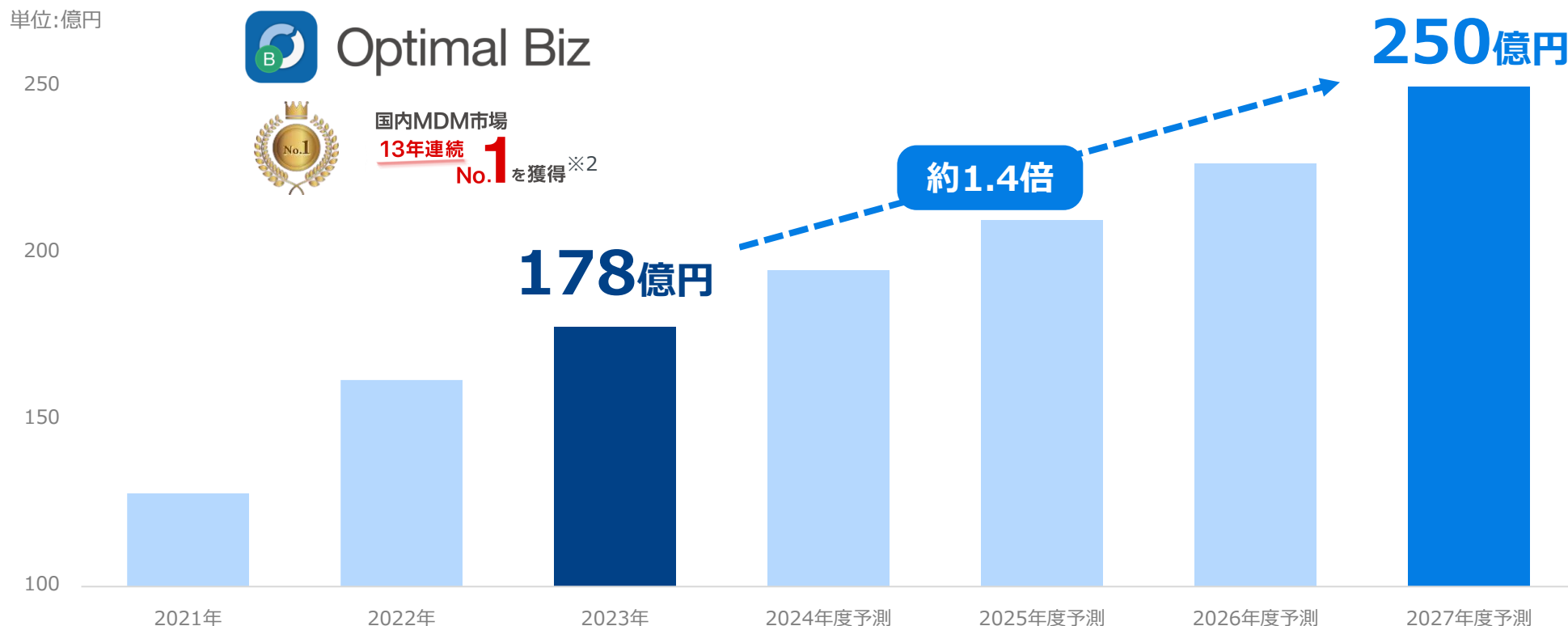


製造業向け No.1

- EMM市場とモバイルOS別動向
- 管理対象モバイルOS別市場動向 **2部門**
- モバイル管理ソフトの市場動向
- MDM市場動向 **2部門**
  - 提供形態(パッケージ/SaaS・ASP)別市場動向 **3部門**
  - 管理対象モバイルOS別市場動向 **3部門**
  - ユーザー規模別売上動向 **3部門**

※1出典：デロイト トーマツ ミック経済研究所 「クラウドサービス市場の現状と展望 2013年度版」 IT資産管理 (MDM含む) 市場「合計売上高」2011年度～2022年度実績 (2013年発刊)、「コラボレーション/コンテンツ・モバイル管理パッケージソフトの市場展望 2014年度版」MDM市場動向「MDM出荷ID数 (SaaS・ASP含む)」2013年度実績 (2014年発刊)、「コラボレーション/コンテンツ・モバイル管理パッケージソフトの市場展望」MDM市場動向「MDM出荷ID数 (SaaS・ASP含む)」2014年度～2017年度実績 (2015～2018年発刊)、「コラボレーション・モバイル管理ソフトの市場展望」MDM市場「MDM出荷ID数 (SaaS・ASP含む)」2018年度～2022年度実績および2023年度予測 (2019年～2023年発刊)より。  
 ※2 デロイト トーマツ ミック経済研究所 2023年度発刊「コラボレーション・モバイル管理ソフトの市場展望 2023年度版」  
 (https://mic-r.co.jp/mr/02880/)の2022年度実績のうち、「Optimal Biz」が1位の評価を得た部門の数をオプティムが集計

モバイルマネジメントサービス市場は2027年時点で市場規模が**約250億円**  
(2023年実績比で**約1.4倍**)  
まで拡大することが見込まれております※1



※1 出典：デロイト トーマツ ミック経済研究所「コラボレーション・モバイル管理ソフトの市場展望 2023年版」

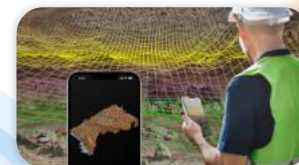
※2 出典：デロイト トーマツ ミック経済研究所「クラウドサービス市場の現状と展望 2013年度版」IT資産管理 (MDM含む) 市場「合計売上高」2011年度～2012年度実績 (2013年発行)、  
「コラボレーション/コンテンツ・モバイル管理パッケージソフトの市場展望 2014年度版」MDM市場動向「MDM出荷ID数 (SaaS・ASP含む)」2013年度実績 (2014年発行)、  
「コラボレーション/コンテンツ・モバイル管理パッケージソフトの市場展望」MDM市場動向「MDM出荷ID数 (SaaS・ASP含む)」2014年度～2017年度実績 (2015～2018年発行)、  
「コラボレーション・モバイル管理ソフトの市場展望」MDM市場「MDM出荷ID数 (SaaS・ASP含む)」2018年度～2022年度実績および2023年度予測 (2019年～2023年発行) より。

# 独自のAI・IoT・Roboticsの技術で あらゆる産業のDXを実現します

農業



建設土木



マーケティング  
行政



セキュリティ



医療



オフィス



## 4. Appendix 成長戦略 中長期の成長戦略

OPTiM®



### アグリテック

TAM:3,885億円



生産者の高齢化、労働人口減少で人手不足。耕作放棄地も増え、国内自給率も低く深刻な状況。OPTiMは、ドローンなどのAI農機を提供し、これらの問題への解決を図っています。ドローン農薬散布サービスは国内No.1の規模に。このサービスを起点として多くのアグリテックサービスを展開していきます。



### デジタルコンストラクション

TAM:3,600億円



建設土木産業は、労働者不足などからによる人手不足、地方企業の廃業などさまざまな課題を抱えています。これらの課題を解決すべく、OPTiMは、スマホで高精度な測量ができるアプリを提供することで現場作業の効率化を図っています。土木作業の測量だけでなくさまざまな現場作業のシーンで使ってもらえる新機能を計画しています。



### マーケティングDX

TAM:3,600億円



スマホを中心に大きく変容する消費者の生活様式にあらゆる組織、企業が対応できるスマホアプリなどを活用した「顧客接点のデジタル化サービス」を提供しています。飲食店や薬局、ハードウェアメーカー、自治体など数多くの組織、企業が採用しており、さらに、拡大を図ります。

OPTiM®

AI・IoT・Robotics

OPTiM Cloud IoT OS

合計TAM:  
2兆4369億円



### デジタルヘルス

TAM:1,500億円



少子高齢化による医療費の増大や病院関係者の人手不足が深刻な課題に。OPTiMでは、これらの課題の解決に遠隔診療サービスを始めたデジタルで業務効率化する各種DXツールの提供を今後も拡大していきます。



### 映像管理DX

TAM:7,562億円



さまざまな産業で人手不足が深刻な課題となる中、防犯カメラなどの分析を人間に変わりAIで実施する事が期待されています。OPTiMはAIが映像などを解析、報告するサービスを展開し幅広い業種で利用されており、今後も拡大していきます。



### オフィスDX

TAM:4,222億円



オフィスのさまざまな文書管理に関する業務をOPTiMが得意とするAIを活用することで効率よく、正確に処理することを可能にするサービスを提供しています。現在、契約書管理サービス、電帳法対応サービスを提供しており、今後、ラインナップの拡充を検討しています。

## ■各サービスの概況

区分		概況
X-Techサービス	アグリテック	<b>【急成長】</b> 農業DX「ピンポイントタイム散布サービス」が全国の水稲栽培で急成長。今期散布予定面積が急拡大し、国内No.1のドローン農薬散布サービスとなる見込み。継続率も極めて高く、今期さらに投資を強化し、一気にシェアの拡大を目指す。
	デジタルヘルス	<b>【堅調】</b> 遠隔診療サービスに加え、手術支援ロボットシステム「hinotori™サージカルロボットシステム」用ネットワークサポートシステム「MINS」を展開中。また医師、看護師の作業負担を軽減する電子カルテと連携可能なLLM（大規模言語モデル）を活用したサービスを提供準備中。
	デジタルコンストラクション	<b>【好調】</b> スマホ3次元測量アプリ「OPTiM Geo Scan」のライセンス契約数累計1,000件を突破、測量の枠組みを超える新機能を続々と投入。大規模ゼネコン向けコーポレートライセンスも提供開始。国交省からも高い評価※1を得ており、好調なサービス展開続く。
	マーケティングDX	<b>【新展開】</b> 「OPTiM Digital Experience」プラットフォームを活用した「佐賀市公式スーパーアプリ」を佐賀市へ提供中。サービス開始9ヶ月で佐賀市民有効浸透率約3割※2と新しいデジタル行政インフラに。デジタル庁などからも高い評価※3と支援。今期、全国1,724の自治体へマーケティングを本格的に開始予定。
	オフィスDX	<b>【加速】</b> 「OPTiM Contract」及び「OPTiM 電子帳簿保存」のライセンス数が大幅に成長。改正電子帳簿保存法対応サービスへのニーズも引き続き堅調。今期、投資を拡大させ更なる成長を目指す。
	映像管理DX	<b>【着実】</b> 「OPTiM AI Camera」及び「OPTiM AI Camera Enterprise」について、自治体やショッピングセンター、空港など、さまざまな施設において運用がされており、堅調にライセンス売上増加中。

※1出典：「OPTiM Geo Scan」が国土交通省NETIS登録における 最高評価「VE」を獲得  
<https://www.optim.co.jp/newsdetail/20240130-pressrelease-01>  
 ※2 2024年5月時点、当社調べ。  
 佐賀市におけるスマートフォンの所有者数と佐賀市公式スーパーアプリダウンロード数から算出 [https://www.chisou.go.jp/sousei/about/mirai/pdf/01\\_r5kouhuyoushiryou.pdf](https://www.chisou.go.jp/sousei/about/mirai/pdf/01_r5kouhuyoushiryou.pdf)

※3 出典：地方創生サイト「デジタル田園都市国家構想交付金デジタル実装タイプの採択結果について」32ページより。  
 事業概要「みんなで創る・誰もが使える！『スマート・ローカル！SAGACITY』」において、デジタル実装タイプ「TYPE3」の評価を取得。  
 デジタル実装タイプとは、TYPE1/2/3の段階的な3種類の交付金が主軸となっており、数字が大きくなるほど先駆的かつデジタル基盤活用が求められて条件が厳しくなるが、交付金の上限額や補助率も大きくなる。

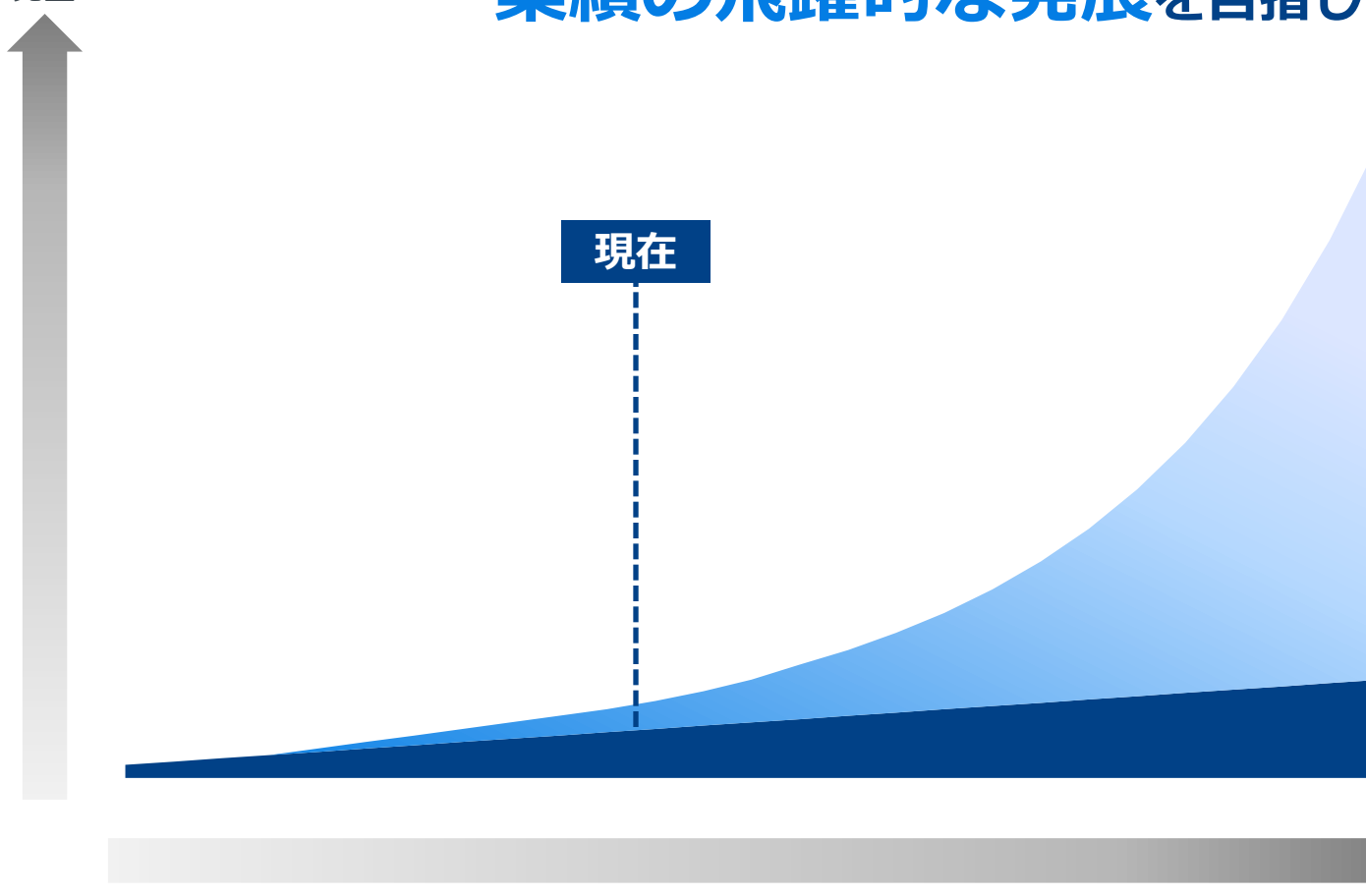
## ■各サービスの概況

区分		概況
モバイルマネジメントサービス	Optimal Biz	【成長続く】MDM市場の拡大とあわせて、着実にライセンス数が増加し成長。今後、キオスク端末のニーズなども拡大の見通し、さらなる成長続く。
その他サービス	リモートマネジメントサービス	【着実】有償サポートでの活用、企業での利用が堅調。PCやスマホだけでなくWebサイトの遠隔サポートができるツールも投入。
	サポートサービス	【減収・安定収益】コンシューマ向けサポートサービスのニーズ低減なるも確実な収益をもたらす。計画通りに推移。
	その他サービス	【停滞・安定収益】「タブホ」などのライセンス売上の大きな伸びは期待できないものの、安定的に進捗し、収益をもたらす。計画通りに推移。



モバイルマネジメントサービスを着実に伸ばしつつ  
DX市場の急拡大を受け、X-Techサービスを大きく成長させ  
業績の飛躍的な発展を目指します

売上



X-Techサービス

- アグリテック
- デジタルヘルス
- デジタルコンストラクション
- オフィスDX
- マーケティングDX
- 映像管理DX
- など

モバイルマネジメントサービス

- Optimal Biz

将来

OPTiMは、AI・IoT・Cloud・Mobile・Roboticsを使った  
新しい価値を創造し続け、あらゆる産業のDXを推進し、  
あらゆる人々に、豊かでサステナブルな未来を実現する企業です





Optimal Biz — モバイルの可能性を広げる —  
PC・モバイル管理SaaSサービス



国内MDM市場  
**13年連続** **No.1** <sup>※1</sup> を獲得

Optimal Bizは、スマートフォンやタブレットの  
ビジネス活用における幅広い課題を解決



紛失・盗難・  
情報漏えい対策



端末設定の  
効率化



資産管理・  
端末監視



セキュリティ設定

**180,000**社以上<sup>※2</sup>の  
圧倒的な導入実績

平均解約率 約**0.5%**<sup>※3</sup>

※1 出典：デロイト トーマツ ミック経済研究所 「クラウドサービス市場の現状と展望 2013年度版」IT資産管理（MDM含む）市場「合計売上高」2011年度～2012年度実績（2013年発行）、  
「コラボレーション/コンテンツ・モバイル管理/パッケージソフトの市場展望 2014年度版」MDM市場動向「MDM出荷ID数（SaaS・ASP含む）」2013年度実績（2014年発行）、  
「コラボレーション/コンテンツ・モバイル管理/パッケージソフトの市場展望」MDM市場動向「MDM出荷ID数（SaaS・ASP含む）」2014年度～2017年度実績（2015～2018年発行）、  
「コラボレーション・モバイル管理ソフトの市場展望」MDM市場「MDM出荷ID数（SaaS・ASP含む）」2018年度～2022年度実績および2023年度予測（2019年～2023年発行）より。

※2 2019年6月25日、当社集計

※3 主要パートナー実績をもとに当社が算出した月間平均集計期間(2021年4月-2022年3月)

## モバイルマネジメントサービスは社会のDX浸透に併せて 次々と新しい使われ方が始まっています



① オフィスでの活用



② 業務端末での活用



③ 文教での活用



④ 検温



⑤ テレワーク



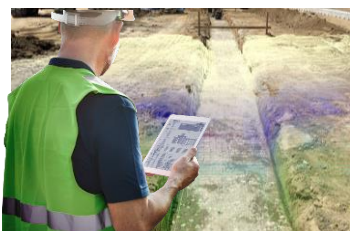
Optimal Biz

国内MDM市場

13年連続 **No.1** を獲得<sup>※1</sup>



⑥ 遠隔医療サービス



⑦ 建設測量



⑧ 業務遠隔サポート



⑨ 店舗の混雑状況確認



⑩ キャッシュレス決済

業界別  
全20部門でNo.1<sup>※2</sup>獲得



学校向けNo.1



公益事業向けNo.1



金融業向けNo.1



流通業向けNo.1



サービス業向けNo.1



通信向けNo.1

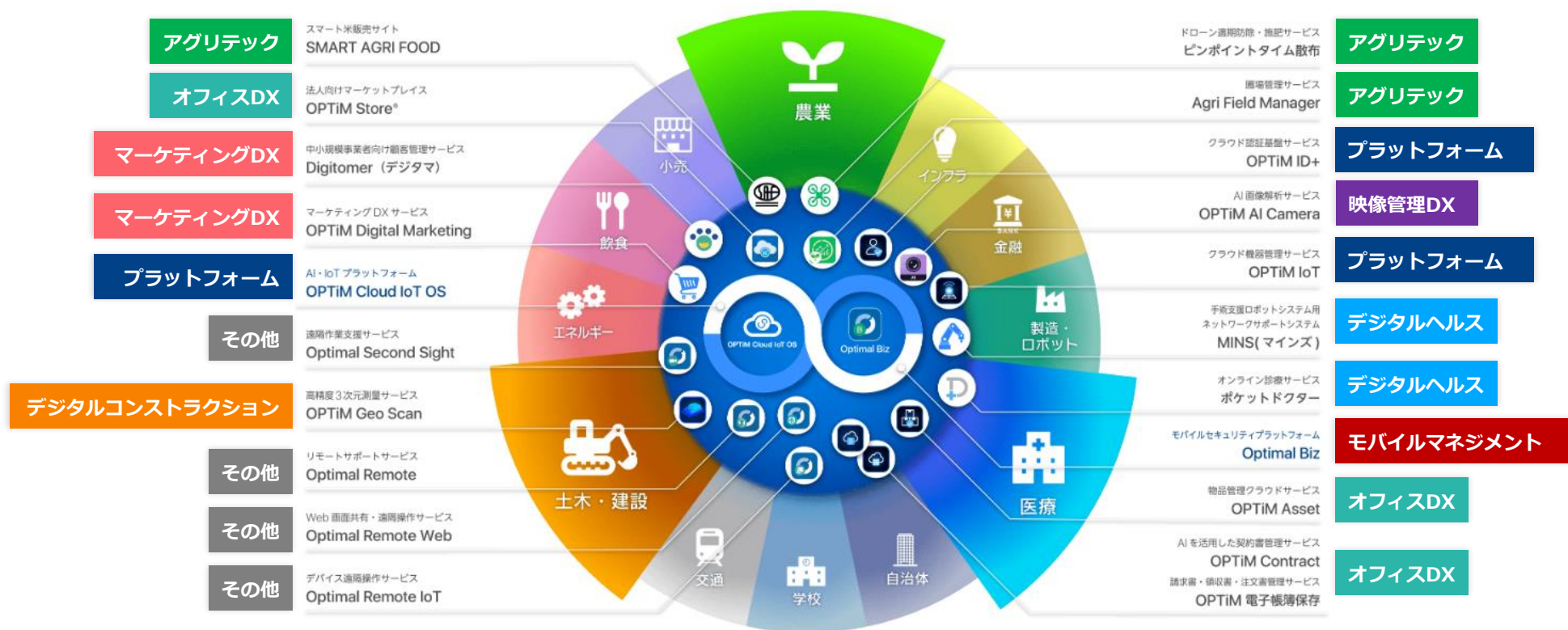


製造業向けNo.1

- EMM市場とモバイルOS別動向
- 管理対象モバイルOS別市場動向 **2部門**
- モバイル管理ソフトの市場動向
- MDM市場動向 **2部門**
  - 提供形態(パッケージ/SaaS・ASP)別市場動向 **3部門**
  - 管理対象モバイルOS別市場動向 **3部門**
  - ユーザー規模別売上動向 **3部門**

※1 出典：デロイト トーマツ ミック経済研究所 「クラウドサービス市場の現状と展望 2013年度版」 IT資産管理 (MDM含む) 市場「合計売上高」2011年度～2012年度実績 (2013年発行)、  
「コラボレーション/コンテンツ・モバイル管理パッケージソフトの市場展望 2014年度版」 MDM市場動向「MDM出荷ID数 (SaaS・ASP含む)」2013年度実績 (2014年発行)、  
「コラボレーション/コンテンツ・モバイル管理パッケージソフトの市場展望」 MDM市場動向「MDM出荷ID数 (SaaS・ASP含む)」2014年度～2017年度実績 (2015～2018年発行)、  
「コラボレーション・モバイル管理ソフトの市場展望」 MDM市場「MDM出荷ID数 (SaaS・ASP含む)」2018年度～2022年度実績および2023年度予測 (2019年～2023年発行) より。  
※2 デロイト トーマツ ミック経済研究所 2023年度発行「コラボレーション・モバイル管理ソフトの市場展望 2023年度版」  
(https://mic-r.co.jp/mr/02880/)の2022年度実績のうち、「Optimal Biz」が1位の評価を得た部門の数をオプティムが集計

X-Techサービス領域では、オプティムの持つセキュリティやデバイス管理などのプラットフォームとAI/IoT/Robotics等のテクノロジーを用いた、産業・業種毎に特化したDXサービスを提供しています。これにより、社会全体のDXを推し進め、かつ、各産業特有の社会課題の解決を図ります。



※ X-Techサービスは、上記の図の内、アグリテック、デジタルコンストラクション、デジタルヘルス、マーケティングDX、オフィスDX、映像管理DXが該当します

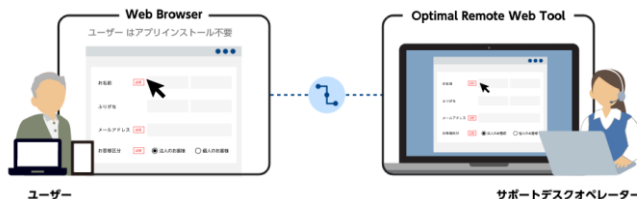


## Optimal Remote シリーズ

「Optimal Remote」はおお客様のPC・スマートフォン・タブレット・Web・IoT端末等の画面をリアルタイムで共有し、遠隔からおお客様の課題を解決できる遠隔サポートサービスです。



## Optimal Remote Web



## Optimal Remote IoT



## Optimal Second Sight

※ 2023年3月時点

## タブホ<sup>®</sup> powered by OPTiM

550円(税込)で1,000誌以上※すべて読み放題

- バラエティ豊かなラインナップ
- 読みたい雑誌は必ずある！
- 人気のジャンルからニッチなジャンルまで、あなたの好きな雑誌を見つけよう！見逃した記事が後で読める、バックナンバーも充実。

## タブホ<sup>®</sup> スポット

お客様の待ち時間による“退屈”が“楽しみ”に変わる

タブホスポットは電子雑誌の定額読み放題サービス「タブホ（タブレット使い放題）」の法人向けサービスです。美容院や飲食店、病院、宿泊施設等の事業者様はタブホスポットを申し込むことで、来店のお客様に「タブホ」を無料提供できるようになります。

## パソコンソフト使い放題<sup>®</sup> powered by OPTiM

パソコンソフト使い放題 powered by OPTiMは、娯楽から辞書までさまざまなジャンルのソフトウェアを定額で好きなようにご利用できるパソコンソフト使い放題サービスです。

# 質疑応答

---

## 事前に頂いた質問

- ストック売上が順調に成長しており、X-Techサービスが売上成長を牽引しているようですが、X-Techサービスのどの分野が成長しているのか、可能な範囲内で構いませんので教えてください。



## 事前に頂いた質問

- 御社グループでは生成AI分野へ積極的に研究開発投資を実施しているようですが、取り組みの詳細について可能な範囲で教えてください。

## 事前に頂いた質問

- 経常利益と純利益が前年実績と比較して減少しているようですが、その理由を教えてください。  
また、経常利益と純利益の着地予想が非開示となっておりますが、これも前年比で減少予想と考えておいてよろしいでしょうか？教えてください。

## 事前に頂いた質問

- 御社は経過措置適用企業であると思います。経過措置の適用期間は2025年3月までだったと思いますが、現時点における御社の具体的な対応状況・方針について教えてください。

